



# 金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行・編集 責任者：

般若慎一郎

## 弥栄節懇親会

9月9日 ホテルニューオータニ高岡において、恒例の首題懇親会が開催され、約70名が参加して懇親しました。

やがえ節は、もともとは鋳物工場でたたき作業をしながら唄われたという作業唄を、歌い易いようにメロディーを改良したり、唄に合わせて踊りを振付けたりして、ご先祖様達が信念と努力によって今日まで伝えてくださった金屋町の宝というべき文化です。将来にわたって傳承し、金屋町の文化として広く発信していきたいものです。



弥栄節保存会会長

藤田益一さん

弥栄節後援会会長

元井 實さん

## 金屋町から60名が参加 高岡市総合防災訓練

8月28日(日)午前9時30分より約2時間をかけて、高岡市総合防災訓練が市内6箇所の小学校区において開催され、約2,100人が参加しました。そのうち西条校下では西条小学校のグラウンドと体育館を主会場にして、各自治会から住民450名がそれぞれ自治会旗を掲げて結集しましたが、金屋町からは60名が参加しました。

午前9時30分に呉羽山断層を震源とする震度6強の地震が発生して市内は大きな被害を受け、各自治会毎に住民が一時避難場所へ集合してまとまって指定緊急避難場所へ向かうという想定です。

まず体育館でいくつかの体験をしました。



毛布を担架がわりに負傷者搬送訓練

「防災グッズ作り」として新聞紙でスリッパ製



土のう製作訓練

作を実習し、キッチンペーパーと輪ゴムでマスク作りの実演を見学しました。

災害時に災害状

況を動画で伝送するためのドローンや小型無人ヘリコプター、そしてそれらで撮影したビデオ映像などが展示されました。

「予防救急講習」として、緊急時に毛布を担架代わりにして負傷者を運ぶ実習、家庭内で危険予防のためのKYT(危険予知訓練)など。続いてグラウンドへ出て「土のう作り訓練」消火器による「初期消火訓練」などを体験し、最後に体育館で「避難所利用計画と生活ルール」の説明を受けました。

閉会式の後には婦人会が炊き出したカレーライスを試食しました。カレーライスと言っても、備蓄用の大型レトルトパックを湯で温めたカレーを入れた発泡ポリスチロールの皿と、備蓄米をナイロン袋の中で炊いたご飯を袋ごと受け取るものです。ご飯は団子の様に固まっています。

しいとは言いがたいものですが、災害時食の体験でした。

地震が少ないと言われてきた九州で熊本地震が発生し、大変な被害状況です。私達が住む富山県でも地震は少ないほうですが、熊本を他山の石として災害に備える心構えが大切でしょう。

400数十年前ですが、過去には天正の大地震もあったことです。

## 宮田亮平さんを招いて とやま国際工芸シンポジウム



宮田亮平文化庁長官（前東京藝術大学学長）

9月3日 富山市の富山国際会議場において首題のシンポジウムが開催され、金屋町から8名が聴講してきました。

2020年に東京オリンピック&パラリンピックが開催されますが、それに向けた文化プログラムの一環として「国際工芸サミット」を来年秋に富山県で開催すると、8月26日に文化庁が発表しました。会場は富山市と高岡市になると予想されます。因みに2018または2019年に福井県で、2020年に石川県でも開催する計画です。今回のシンポジウムはそのイベントと位置づけられたものです。

金屋町開町400年の際にも来て頂いた宮田亮平文化庁長官が基調講演し、石井県知事が「アートとデザインを活用した産業・文化の活性化と魅力づくり」と題して県の政策について講演しました。更に、イタリアとイギリスのデザイナーも交えたパネルディスカッションへと

続きました。

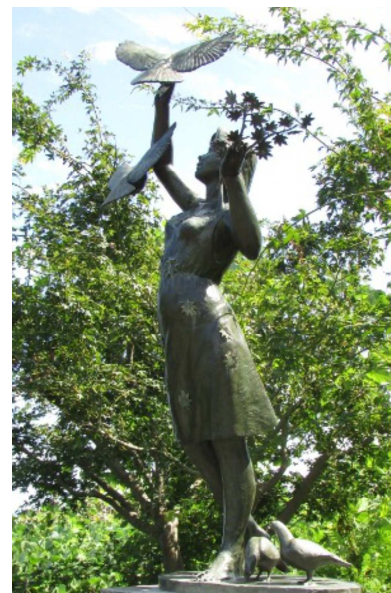
宮田長官は身近な新聞広告などを例示し、ヒントは身近に転がっていて、それをいかにして掴み取り活かすかがキーポイントであると示唆しました。

石井知事は、伝統工芸品の生産高はここ20年で全国レベルで5分の一に、富山県では3分の一に縮小しているが、県では「匠の技術継承支援事業」において今年度は伝統工芸の匠として7人を、技術継承者として13人を認定し、伝統工芸産業の活性化支援をしていることなどを説明しました。

また、建設中の富山県美術館は来年8月26日開館を予定しており、来年秋に予定される国際工芸サミットと連携して工芸品をテーマに企画展を開催する構想を披露しました。

## 雨晴の「もみじ姫公園」

某「歩こう会」に参加して、国分浜から岩崎鼻灯台を経て義経岩まで歩いてきました。岩崎鼻灯台への訪問は小学校の時以来と記憶するので、何十年ぶりだろうか。



雨晴トンネルのちょうど真上あたりに「もみじ姫公園」という小公園があるのに気づきました。そこには竹中製作所寄贈のもみじ姫のブロンズ像が設置されています。太田地区にある紅葉谷にまつわり、太郎と紅葉姫の

悲しい恋物語の伝説があるそうです。

### 8月の金屋町自治会拡大会議要点

- 金屋町楽市inさまのこについて
- 50回記念西条校下住民運動会について  
～体育振興会
- その他